

に類似の種をみない。溪畔の落葉層の下から採集されたもので、後翅が退化している。おそらく、地表徘徊性の西表島で特殊化したヒラタゴミムシなのであろう。

References

- CSIKI, E., 1931. Carabidae: Harpalinae V. In JUNK, W., & S. SCHENKLING (eds.), *Coleopterorum Catalogus*, pars 115 (pp. 739–1022). W. Junk, Berlin.
- DARLINTONG, P. J., JR., 1952. The carabid beetles of New Guinea. Part 2. The Agonini. *Bull. Mus. comp. Zool.*, **107**: 89–252, pls. 1–4.
- HABU, A., 1978. Carabidae: Platynini (Insecta: Coleoptera). In: *Fauna Japonica*. viii+447 pp., 36 pls. Keigaku Publ., Tokyo.
- JEDLIČKA, A., 1934. Monographie der mit *Colpodes* verwandten Gattungen aus China, Formosa und Philippinen. *Sb. ent. odd. nár. Mus. Praze*, **12**: 177–205, 1 pl.

Elytra, Tokyo, **25** (2): 591–592 November 15, 1997

新刊紹介

「华东百山祖昆虫」 吳 鴻 (編). xviii+586 ページ ; 1995 年 12 月 発行. 中国林业出版社, 北京. [Insects of Baishanzu Mountain, Eastern China. Ed. WU Hong. xviii+586 pp.; Dec. 1995. China Forestry Publishing House, Beijing.]

この書物は、本誌の 473 ページで紹介した「浙江古田山昆虫和大型真菌」につづく報告書で、浙江省南部の庆元県にある百山祖自然保護区で、1993 年から 1995 年にかけて実施された、総合調査の結果をまとめたものである。1995 年 12 月の発行になっているが、実際に刊行されたのは翌年末のことらしく、わたしが現地で入手したのは今年の 6 月だった。

内容は 2 部に分かれ、第 1 部の総説はさらに 6 章 (というより 6 論文) に区分されている。そのなかには、かならずしも首肯しかねる論議もあるが、第 1 章の百山祖自然概況は、わずか 3 ページのものながら便利である。

総計 548 ページにおよぶ第 2 部には、84 名の著者によって執筆された 107 篇の論文と、巻末にまとめられた参考文献とが収められ、22 目 2203 種の有翅昆虫類が記録されている。このうち、9 新属 250 新種が含まれ、新属はチャタテムシ目、チョウ目、ハエ目およびハチ目にわたっている。無翅類の昆虫が除外されていることや、チャタテムシ目 (2 新属 69 新種の記載を含む)、クロバネキノコバエ科 (2 新属 35 新種の記載を含む) などの記述がとくに目立つことは、「浙江古田山昆虫和大型真菌」の場合と同様だが、キノコバエ科に 17 新種、オドリバエ科に 15 新種、アシナガバエ科に 9 新種が記載されているのも注目し値する。将来、これらの昆虫群の邦産種を研究するに際して、必読の文献となることは確かだろう。著者の所属は 20 以上の

機関にわたるが、中心的な役割を果たしたのは北京农业大学の研究者だったようで、基準標本の多くもここに保管されているらしい。

古田山自然保護区の調査結果と同じように、甲虫類に関する成果は比較的小さく、また偏りがいちじるしい。このことは、カミキリムシ科46種、ハムシ類64種に対して、オサムシ科が6種、ハネカクシ類がシテムシを含めてもわずかに4種という数字からもよくわかる。その他の科では、ハンミョウ科3種、ゲンゴロウ科2種、ミズスマシ科1種、ガムシ科3種、コメツキムシ科17種、ハナノミ科5種、テントウムシ科30種、ヒメドロムシ科5種、ヒラタドロムシ科1種、ゴミムシダマシ科4種、コガネムシ科33種、クワガタムシ科9種、ゾウムシ科12種、オトシブミ科4種（掲載順）が記録されているが、一見してわかるように、食葉性ないし陽性の種が大多数で、地上性ないし陰性のものはほとんど調査されていない。これらの記録は、主科、科または亜科別に22篇の論文にまとめられているが、科の分類の細分化されているものがあり、また著者によって種の同定自体にもかなり精粗があるように見受けられる。

なお新種は、チビハネカクシ科に1種 (*Micropeplus unicornis* YANG), ハナノミ科に1種 (*Falsomordellistena baishanzuna* FAN), ヒメドロムシ科に1種 (*Stenelmis grossimarginata* ZHANG et YANG), ヒラタドロムシ科に1種 (*Psephenoides wuhongi* YANG), ゴミムシダマシ科に2種 (*Plesiophthalmus rubrofasciatus* REN および *Gonocephalum wui* REN), コガネムシ科に1種 (*Heptophylla laticollis* ZHANG), ハムシ科に1種 (*Sermyloides baishanzuia* YANG) の計8種が記載されている。

B-5判本製で、厚さ25ミリ、重量1キロを越す立派な印刷物ではあるが、このような入手しにくい調査報告書のなかで多数の新属や新種が記載されるのは好ましくない。できれば新属や新種の記載を切り離して、その部分だけをしかるべき学術誌に発表するか（中国にはいくつものよい雑誌がある）、あるいは、この出版物の入手を希望する研究機関や個人のだけれども、適当な取次店を通じて容易に購入できるよう配慮されるべきであった。同じような報告書は今後中国で出版されることと思われるが、内容の紹介と入手の方法とが、たとえば「昆虫学报」や「昆虫分類学报」のような、中国で一流の学術誌に公告されることを望みたい。

(上野俊一)